

第19回日本野蚕学会大会報告

日本野蚕学会第19回大会実行委員長 蛭木 理

日本野蚕学会第19回大会を平成25年11月16日（土）に東京都小金井市の東京農工大学科学博物館（旧繊維博物館）で開催いたしました。皆様方のご支援、ご協力により大過なく終了することができましたことを厚く御礼申し上げます。

野蚕学会大会を本学の博物館で開催する件については、かねてから赤井会長から強い要望がありましたが、改修工事などで実現しませんでした。当博物館は明治19（1887）年に東京農工大学の前身の一つである農商務省蚕病試験場の参考陳列場に始まり、昭和27（1952）年には博物館法に基づく「博物館相当施設」に指定され、昭和52（1977）年に本学工学部附属繊維博物館となりました。その後、平成20（2008）年に東京農工大学科学博物館と名称を変更し、平成24年10月3日に装いも新たに、研究活動に重点を置いた大学博物館施設として生まれ変わりました。このような歴史ある場所で日本野蚕学会の大会を開催できたことを大変嬉しく思っています。

大会には北は福島県から南は九州沖縄まで80名を超える会員に参加していただき、一般講演は18課題となったため、一人当たりの講演時間を12分に短縮せざるを得ませんでした。発表された方々にはご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。一般講演の内容は、いわゆる野蚕だけにはとどまらず、スズメバチやクロツツビケラのシルクまで多岐にわたるものでした。今大会最初の講演「日本における繭を作る昆虫たち」（三田村敏正会員）のお話も含め、まだまだ知らないことがたくさんあると感じました。

展示発表は織物製品、健康食品のほか、見たこともない繭や本なども展示され、大変面白く拝見させていただきました。展示には8件の申込みがあり、前回より若干少なくなっていたものの予定した会場が一杯になってしまい、ここでも皆様に窮屈な思いをさせてしまったと反省しております。

特別講演では東京農工大学教授・東京農工大学名誉教授の三橋淳先生に「昆虫食の未来」と称するご講演をいただきました。この講演は、2013年5月にFAO（国際連合食糧農業機関）森林局の非木材森林生産研究チームが出版した、将来の食糧問題への対処としての「Edible Insects」なるレポートが話題になったことから、赤井会長の肝いりで実現したものです。内容的には少々気持ち悪い部分もありましたが、我々の未来を想像する上で貴重なお話しであったと思っています。

今回の大会ではシンポジウムは行いませんでしたが、それに代わって東京農工大学科学博物館の見学会を実施しました。当博物館秘蔵の展示物としては、故・鈴木三郎名誉教授が蒐集された600点に及ぶ蚕織錦絵、当時最先端の印刷技術を駆使した生糸商標、シャルドンネ人絹、製糸・機織機械の動態展示などがあります。特に、シャルドンネ人絹（写真）はパスツール研究所のHilaire de Chardonnetが1885年に製造した世界で初めての人工繊維で、現存するものはきわめて少ない貴重なものです。初期の人造絹糸はセルロースが原料となっていたためきわめて燃えやすく、少なくとも日本では本学だけで見ることができるとされています。そんな貴重なものがなぜ農工大にあるのか定かではありませんが、1889年にパリで開催された万国博覧会に参加した方がもらってきたのではと考えられています。見学会では参加者を60名ほ

